

## 多文化共生部会 意見要旨

## ■ 検討テーマ（1）板橋らしい国際交流

## 委員意見

## （評価）

- 板橋区が行っている国際交流事業について、一つの区がこれだけの事業を行っているということは評価できる。
- 平成 30 年度に行った「板橋区海外姉妹友好都市紹介イベント」のなかで、企画展示を Google ストリートビューで公開するという試みを行ったが、再生回数が 15,687 回という数字だったことは素晴らしい。
- 交流都市が 23 区内最多の 5 か国という点は非常に評価できる。国際交流は世界平和につながるもので、重要である。
- 市（区）民交流に関して、交流後も、パネル発表やスピーチを行うなど、広く区民に周知するように取り組んでいる。

## （課題・意見）

- 海外から板橋区に来る外国人は、生産年齢人口が多い。自分の子どもが学校に通う世帯か、自分がその社会で働いているか等で、社会との関わり方が変わる。今後は「仕事」という側面での交流を考えていけば、外国人の雇用を生み出し、地域の担い手になってもらえると考える。
- 外国人とともに仕事をし、ともに生活するという多文化共生の新たなステージに入ってきていると感じる。外国人は「お客様」ではなく、同じ板橋区民である。事業については、わざわざ外国人のために用意するのではなく、日本人が普段活動している中に、外国人が入っていければよい。
- 日本人の側から、外国人の生活が見えていない部分が多いと感じる。外国人の生活の実態を、日本人が理解できる仕組みづくりが必要だと考える。
- 事業を行う際は、小さな単位で行い、参加者が互いの顔を見られる環境づくりが大切である。
- 今後は、区が主体的に事業を行うのではなく、区民の活動をサポートすることが重要であると考えます。
- SDG s の視点から多文化共生の推進に取り組むためには、外国人が日本で学んだ知識や技術を母国に持ち帰ってもらうという発想や、交流都市などとの国際交流は、行政課題に関するテーマをもって行うという視点が必要である。社会の問題を世界中の人々でどのように解決していくかという問いが、SDG s の取組みを発展させる方向性のひとつである。
- 地域での交流は、外国人を町会の活動に巻き込むなどして、当事者として扱うべき

である。

- 板橋区は交流都市が 23 区中で 1 番多い 5 か国となっている。交流都市からの来賓について、建設関係や教育・高齢者施設視察など、テーマをもって受け入れを行えるとよいのではないか。
- 交流都市との青少年・区民交流をさらに進めていくことが課題であると感じる。写真家や芸術家など、同じ分野で活躍する人同士の交流などを考えていくのはどうか。さらに、このような交流は、一度きりの交流ではなく、継続的な関係を築く必要があると感じる。
- 周年交流を市民交流へ、継続的な発展
- 青少年・教育交流のさらなる促進
- 文化交流のさらなる促進
- 市民交流とボランティア活動のさらなる充実
- 在住外国人の国籍や言語の多様化に対応するため「やさしい日本語」の活用推進
- 日本語学習機会提供のさらなる充実
- 日本語学習のボランティア活動を通じた日本人と外国人の交流促進

## ■検討テーマ（２）文化芸術活動の場

### 委員意見

（評価）

- 児童・生徒など、青少年に対する施策は、比較的充実している。
- 板橋区には、多数の語学ボランティアが存在している。

（課題・意見）

- 多言語対応とは、既存の文書等の言語を翻訳するだけということではない。今あるものを根本から見直し、だれにとっても本当にわかりやすいものを作ることである。
- 外国人が住みやすい区にするために、小中学校・地域・大学の連携を強めることが必要。
- 日本の文化に触れることを通して、日本語を学ぶことができる仕組みづくりが必要。
- 外国人の子どもを対象とする、入学前のオリエンテーションを行ったらどうか。価値観や文化の違いなどを事前に説明しておくことで、学校生活に早くなじむことができる。
- 外国人に地域の担い手になってもらうには、日本語を理解してもらうことが欠かせない。病気の際など、生活する上での困りごとをサポートできたらよい。
- 通訳などのボランティアに対して、行政のサポートが不十分だと感じる。また、ボランティア同士のつながりも希薄である。ボランティア間での連携を通じ、情報共有を行うことで、より有効なサービスを提供できる。
- ボランティア活動に関わる区民の数を増やすことが重要である。
- ボランティアに対する敬意を、何らかの形で区から示すことが必要ではないか。
- 外国人に、地域の行事にどの掲示物の多言語対応に課題を感じる。
- 在住外国人の国籍や言語の多様化に対応するため「やさしい日本語」の活用推進。
- 日本語学習機会提供のさらなる充実。
- 日本語学習のボランティア活動を通じた日本人と外国人の交流促進。
- 参加してほしいと思っても、周知することが困難である。

## 次期ビジョン（2025 年のあるべき姿）と施策の方向性

### ■2025 年のあるべき姿

- 海外の姉妹・友好都市に住む人びとと区民の活発な交流をとおして、自分とは違う文化に暮らす人への理解や、世界平和を願う気持ちが、区民に広く浸透しているとともに、国際色豊かな次世代が育っています。また、板橋の文化がもつ魅力が姉妹・友好都市をはじめとした世界中に発信されています。
- 地域に暮らす外国人を、同じ地域に暮らす区民として認識し、日常生活の中で、人種や言語の壁を感じることなく、ともに力を合わせ、地域の課題を解決しています。
- 日本語がわからない外国人の方の気持ちに寄り添い、生活するうえで必要な情報を、適切に提供するという意識が区民に浸透しています。また、外国人の方が情報にアクセスしやすい環境が整備されています。
- 外国人が日本語を学ぶことができる環境を整え、日本語を理解してもらうことで、外国人が、自分が暮らしている地域に愛着を持って生活しています。
- 地域で活動するボランティアの力を最大限に活用するため、活動しやすい環境や、ボランティア同士の顔が見えるような仕組みが広く取り入れられています。また、潜在的なボランティアのなり手を積極的に発掘しています。

### ■施策の方向性

- 海外友好・姉妹都市との関係強化  
海外友好・姉妹都市との交流を深めることで、より強い絆をはぐくむとともに、世界共通の課題解決や、世界平和の実現などに向け、新たな関係を構築していきます。また、青少年・教育交流など、区民レベルの交流を促進していきます。さらに、海外姉妹・友好都市との交流の際には、板橋の文化資産を積極的にアピールしていきます。
- 行政情報の多言語化と提供方法の充実  
窓口での通訳サービスの活用や、パンフレット等の多言語化対応を進めることで、外国人の方の日常生活をサポートします。また、やさしい日本語を使用する意識を区職員に浸透させていきます。
- 地域住民としての外国人との共生  
地域に暮らす外国人が、日本人と同じ生活ができるよう、必要な情報をわかりやすい形で伝えるとともに、日常生活の困りごとなどを気軽に相談できる体制を構築します。
- 日本語の学習環境の支援  
日本に住む外国人の日本語能力を問わず、どのような方でも十分な学習ができる環境を整備します。
- ボランティアの活動支援の拡充  
外国人の日本語学習をサポートするボランティアの活動支援をするため、ボランティア同士の連携が取れる仕組みや、尊厳をもって活動できる環境をつくります。

## 多文化部会意見 マトリックス図

